

【主題名】気持ちをこめて 内容項目 「B-(6) 思いやり, 感謝」

【教材名】心に寄りそう (東京書籍 新しい道徳2)

<あらすじ>看護師の山田さんは、これまでの経験から、一人一人の患者さんと目線を合わせてあいさつをしたり、名前を呼んで声を掛けたりすること、そのときどきの心に寄りそって接することの大切さに気付いた。

【ねらい】

内容項目の理解

思いやり, 感謝の中で、思いやりという道徳的価値について指導する。

児童生徒の実態把握

思いやりや感謝の気持ちの大切さには気付いているが、言葉や態度にうまく表すことができない。

本時のねらいを設定する

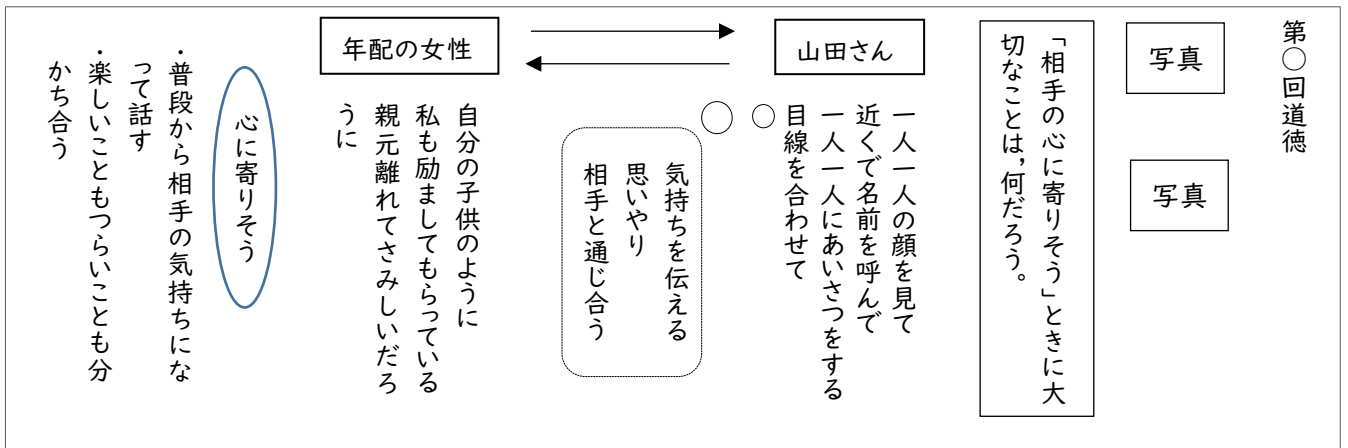
判断力 心情 実践意欲 態度

他の人の気持ちや立場を尊重し、心に寄りそいながら温かく接していこうとする道徳的実践意欲を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	<p>1 教材の内容に興味や関心を持つ。</p> <p>○ この写真に共通していることは、どのようなことですか。 (患者の心に寄りそっている看護師の写真, 幼児と笑顔で接している保育士の写真など)</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <p>「相手の心に寄りそう」ときに大切なことは、何だろう。</p>	<p>導入の工夫</p>
展開	<p>3 教材を読んで話し合う。</p> <p>○ 山田さんの患者さんに対する心配りは、どのように変わっていききましたか。</p> <p>○ 山田さんは、なぜ接し方を変えようとしていたのでしょうか。</p> <p>4 「相手の心に寄りそう」ときに大切なことを考える。</p> <p>○ 女性は、どのような気持ちで山田さんに話しかけてくれたのでしょうか。</p> <p>◎ 相手の心に寄りそいながら接していくためには、どのようなことを心掛けていけばよいのでしょうか。</p>	<p>展開の工夫</p> <p>多面的・多角的</p> <p>自分との関わり</p>
終末	<p>5 説話を聞いて、自己の生き方についての考えを深める。</p> <p>・ 「情けは人の為ならず」ということわざについての説話を聞く。</p>	<p>終末の工夫</p>

【板書計画】



【評価】

相手の心に寄りそうときに大切なことについて、自分との関わりで考える学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。